

デイトレードを学ぶ ～ 心理面～

林康史（立正大学経済学部教授）

デイトレードは、おのずと長期投資とは違った方法が必要となる。しかし、そのことにすら気づかず取引している人が多いのも事実である。

心理的にも、思考もまったく違うのである。（投資の心理については、ここでは書いている紙幅がありません。以下の本等をご覧ください）

リフソン/ガイスト編著，林康史監訳『投資の心理学』東洋経済新報社
ロイ・ロングストリート，林康史訳『相場のこころ』東洋経済新報社
林康史編『図解 マネーの心理学』三笠書房
ベルスキー/ギロヴィッチ，鬼澤忍訳『賢いはずのあなたが、なぜお金で失敗するのか』日本経済新聞社（文庫版の解説は、私が書いています）

たとえば、心理的には、以下のようだ。

アッシュの“同調”に関しては、デイトレーダーは、他者の同調（上昇したから買いたくなる…）を利用し、自分も同調しても問題はない。一方、長期投資家は、同調をいかに排除して思考するかに腐心するのである。

いろいろなヒューリスティックス（簡便な思考法）についても同様である。

“所有効果”は、デイトレーダーには陥りにくいバイアスであり、長期投資家は陥りやすい罠ということになる。

プロスペクト理論は、長短の当とスタイルで違いは出るのだろうか。

マクロの予測と心理も、長短で分けて考えると面白い。為替心理説（アフタリヨン）や美人投票のアナロジー（ケインズ）、サン・スポット（マーケットの自己実現性）、デルファイ法とコントラリー・オピニオンは、どのように解釈できるのだろうか。デイトレードを行なうに際し、そういったことも考えておく必要はあろう。

以上

さて、2月7日にジム・ロジャーズのセミナーがあり、その前座として、私が話をします。1つのテーマは、デイトレードです。ご参考までに、ここに、昨年出した本を自ら語ったものを紹介しておきたいと思います。※（今年1月に同氏が来日した際のレポートもあわせてご参照ください。）

自著を語る 「基礎から学ぶ デイトレード」

本書は、デイトレードをはじめとする短期売買の基本的な考え方については大学院での授業をわかりやすくまとめ、マーケットで利益を上げ続けるための心構えと技術については過去の講演の草稿等をまとめたものである。具体的には、売買の基本的な考え方、心構え、テクニカル等のシステム、運用ルール等々。。はからずも、いわば、私なりの売買の集大成ともなっているが、それは短期売買が、長期も含めて投資と投機の凝縮されたものでもあるからだろう。

マーケットのリスクは「時間」がもたらす。短期売買は時間の経過に伴うリスクを排除し、価格変動のみにリスクを限定する取引方法なのであり、その点が長期と異なるのである。瞬間的ではあっても、価格動向の方向を読み、マーケット参加者の心理を理解し、正しい運用ルールに従わないなら、成功しないという点では、長期取引も同じなのであり、むしろ、それが重要という点で、短期売買を知っておくことは、長期投資の際にもポイントとなる。

また、付録に、CD-ROM をつけた。インターバンク市場を模擬体験できる「ディーリング・ゲーム」、テクニカル分析用 Excel シート（ピボット、ボラティリティ・システム、DMI）が収録されている。

このインターバンクを模擬体験する「ディーリング・ゲーム」は、私が大学や大学院の授業で、トランプのようなカードを用いて6人で行なうゲームをプログラム化したものである。一般の個人投資家がインターバンク市場を経験することは一生で考えてもほとんどないから、相場を理解するためにも、是非、ゲームで模擬体験してほしいと考えて付録をつけたわけだ。インターバンクを理解することなく、デイトレードを理解したとはいえないと、私は考えている。

短期売買の基礎と思考から実戦まで、短期売買を一冊で学べる本になったと自負している。

かつて『相場のこころ』の訳者あとがきで、「競馬が人生の比喩なのではなく、人生が競馬の比喩なのである」という、寺山修司の詩を引いて「相場が人生の比喩なのではなく、人生が相場の比喩なのである」と書いたことがある。また、『デイトレード』（翻訳。本書と類似のタイトルだが、この『デイトレード』は、私たちが翻訳したオリバー・ベレスらの書いた本）の最後の部分で、「トレーディングについて必要なことはすべて、10歳になる前に母から学んだ」とあった。

本書を仕上げ、改めて、それらのことに思い至る。オリバーが、相場について必要なことはすべて、母から学んだ」と言えたのは、それが人生で必要なことと同じだからにほかならない。

[おもな目次]

序 章：マーケットとは何か

マーケットは時間と価格で成り立っている

第1章：短期売買とは何か

価格変動リスクに特化する ルールを単純化する デイトレーダーの分類

第2章：マーケットの心理学

なぜ心理が重要なのか 自分をごまかす心理 ポートフォリオは劣化する

第3章：デイトレーダーの心構え

間違っただ行動を正当化しない 入った瞬間に勝ち負けは決まっている

自分がしたくないことをする

第4章：トレーディング・システムの構築

なぜシステムが必要なのか トレンドとテクニカル分析

有効なテクニカル指標（ピボット、ボラティリティ・システム、DMI）

第5章：運用ルールの構築

ギャンの運用ルール マネー・マネジメント ストップ・オーダー

第6章：ディーリング・ゲーム

外国為替取引とツーウェイ・クォート ゲームのルールとやり方

ゲームから学ぶべきこと

補章：外国為替証拠金取引

外国為替証拠金取引の特徴 証拠金取引とレバレッジ

付録：CD-ROMの使い方

ディーリング・ゲームの操作方法 Excel シートの使い方

（ピボット／ボラティリティ・システム／DMI）

<コラム>

投機と投資

10%の儲けと10%の損

期待値の落とし穴

分散投資の真実

直観とは何か

マーケットの季節性

移動平均の嘘

バルークの10カ条

マルチンゲール法

ドルコスト平均法の嘘

板と場味

72のルール

林康史（はやし やすし）

立正大学経済学部教授。

一橋大学大学院他で、短期売買・取引、テクニカル分析（システム・トレーディング）などを担当（非常勤）。東北財経大学（中国大連）客員教授・金融工程研究センター顧問。所属学会等は以下。日本テクニカル・アナリスト協会、日本金融学会、金融法学会、法と経済学会、日本FP学会、法文化学会。ファイナンシャル・プランニング技能士（二級）。

大阪生まれ。大阪大学法学部卒。社会人の傍ら、法学修士（東京大学）。

大学卒業後、クボタ、住友生命、大和投資信託、あおぞら銀行を経て、2005年より現職。

主な著書・訳書：

『W. D. ギャン著作集 I・II』（共訳）、『ギャンの相場理論』（編著）、『ラリー・ウィリアムズの相場で儲ける法』（共訳）、『はじめてのテクニカル分析』（編著）、『冒険投資家 ジム・ロジャーズ 世界大発見』（共訳）、『ジム・ロジャーズが語る 商品の時代』（共訳）、以上、日本経済新聞社。

『相場としての外国為替』、『相場のこころ』（訳）、『欲望と幻想の市場～伝説の投機王リバモア』（訳）、『投資の心理学』（監訳）、以上、東洋経済新報社。

『デイトレード』（監訳）、『基礎から学ぶデイトレード』、『マネーの公理』（監訳）、以上、日経BP社。『天才数学者、株にハマる』（共訳）ダイヤモンド社。『チャート分析入門』かんき出版。『エリオット波動』（監修）日本証券新聞社。『金持ち父さんの投資ガイド 入門編・上級編』（共訳）筑摩書房。『図説 マネーの心理学』（編）三笠書房。『「夢」が実現する かんたん！ マネー・ノート』（編著）宝島社など、50冊を数える。※ 下線は、テクニカル分析に関係するもの。